



その24

菅原道真

—すがわらのみちざね—
845年～903年

(令和5年5月1日号—第344号)



すがわらのみちざね じょうわ
菅原道真は、承和12年（845年）、学者の家に生まれました。幼少より学業に
励み、学者としての最高位、もんじょうほかせ 文章博士となりました。異例の出世を重ね、しょうたい
昌泰2年（899年）、右大臣の要職に任命され、左大臣ふじわらのときひら 藤原時平と並んで国家の政務を統括
しました。

ところが、藤原氏の策謀により、901年、大宰府に左遷されます。

本市に残る伝説によると、道真が九州に向かう途中、馬が病気になったので里の人に預けました。その馬が死んだ後、埋葬した上にほこら 祠を建て、草や切り藁を供えていたのが、いつの頃か「クサガミサン（草神さん）」（牧野本町1丁目）と呼ばれるようになりました。

また、道真は、小高い山の上で、都の方角を望み名残を惜しみました。道真を慕って娘のかりやひめ 菟屋姫が後を追って来ましたが、着いたときには、既に道真



蹉跎神社の社殿

は旅立った後でした。姫は、足ずり（さだ）して悲嘆の涙に暮れました。一説によると、ここから蹉跎という地名が生まれたとも言われています。

姫を哀れんだ道真は、自身の座像を作りました。これを村人が祀るためにしゃでん 社殿を設けたのが蹉跎神社（南中振1丁目）の起源とされています。

道真にまつわる神社や旧跡は各地にあります。枚方にも残る旧跡を一度訪ねてみてはいかがでしょうか。